



白子集

~ 5
5824



近作

修心の内々々々

縁なき故に故

系解

各其の道に在り

白くまきりて

夜更けの月影

とけりての月影

修心

いづれをいふや

いづれをいふや

修心

正心修身序



語曰徳不孤必有隣

の國にもの系約は江其外の人を集む

よる事甚ふ 芭蕉翁の二百年

の心とていふは

りて靈魂を慰む事なりとの記

念ふ事、いふ事、いふ事、いふ事

昭和26年6月7日寄
内倉則之氏贈

らたしつ 佳子、花の霞のちりり
あまのこころ ちりり ちりり ちりり
ちりり ちりり

明治二十六年の歳盛書

芳村 半日

百二回忌の集

一具 唐 尋 香
煉 子 唐 粉 香
玉 葉 唐 糸 粉
翠 葉 唐 糸 粉
江 綸 棧

二百回忌の當座連欣眼起

鳥羽の葉の表をひらき

細心の

しつとほほほほほ

糸静

松をひらき

澄江

海風の舟子村々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々
夕陽の影をうけて又々

卯水
梅雪
逸川
一葉
高松
敵月
春草
夕臣
蒼苔
月泉

駒尖機をこきり
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々

彦谷
尋香
執業

秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々
秋晴の影をうけて又々

蓬宇
吟風
以孝

おれくし書略

一、二百年の月やおれくし書略
二百年の月やおれくし書略
三百年の月やおれくし書略
四百年の月やおれくし書略
五百年の月やおれくし書略
六百年の月やおれくし書略
七百年の月やおれくし書略
八百年の月やおれくし書略
九百年の月やおれくし書略
一千年の月やおれくし書略

伊勢

耕る
香る
社楽
藍屋
蕨及
十湖
蕙歎

一、二百年の月やおれくし書略
二百年の月やおれくし書略
三百年の月やおれくし書略
四百年の月やおれくし書略
五百年の月やおれくし書略
六百年の月やおれくし書略
七百年の月やおれくし書略
八百年の月やおれくし書略
九百年の月やおれくし書略
一千年の月やおれくし書略

武蔵

女
不退
省我
一驚
晴我
壽山
鹿角
富積
為義

佛檀のいりねあや初しと終
 りのさしと終あしとゆきと終
 華のあしと終しと終と終と終
 ちと終の八しと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 ちと終のさしと終と終と終
 二と終しと終と終と終と終
 そと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終

柏香
 山
 入瓢
 甘多
 蓬香
 檀香
 身牙
 梅年
 善岳
 杉年

しと終のさしと終と終と終
 ちと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終
 しと終のさしと終と終と終
 こと終のさしと終と終と終

枕之
 善文
 屏山
 石井
 甘道
 方一
 色画
 之六
 砂米
 菜肉

うけく〜〜 柳一柳
ふんやう〜〜 柳一柳
あふくのふ向のあ〜 華一柳
あ〜〜 柳一柳
夕信や〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳

東京

是珠
朱文
梅壽
芳律
壽北女
碧海
梅林
貞松
信足
乙年女

七

白石木よ〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳
〜〜 柳一柳

自園

采月
秋月
春茂
幽年
生壽
希志
一陽
蒼雪
翠柳
犬山

敬くくくくくくくくくくくくくくく

兼一多岐二五年三月三日

とめくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

津車

一瀬

一賀

束令

共友

玉水

精徳

和北

歳と守と年番叙のこころ

くくくくくくくくくくくくくく

其味くくくくくくくくくくくく

其れくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

本中くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

ま島くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

七十八

尋香

八十五

糸静

八十五

澄江

東京

三石

八十五

青豆

八十五

多織

八十五

鳳羽

身をいかにしむるに
節の先をいかにしむるに
而してはやくいかにしむるに
中も山をいかにしむるに
秋月をいかにしむるに
いかにしむるに
知る事やいかにしむるに
先づいかにしむるに
いかにしむるに
いかにしむるに

文
逸
止
山
芽
妙
雪
虚
魯
水

春
角
碑
少
い
朝
軒
冬
柳
踊

春
源
東
柔
一
蒼
未
竹
出
梅

く川 始や せき我 ことり ありて
そと せき 小海 八つ せき せき せき
日 せき 下 せき せき せき せき せき
中 せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
百 せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき

米舟
香月
融水
採花女
子敵
休夫
梨子
十有
大坂

名月 中 降 せき せき せき せき せき

九峰

せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき
せき せき せき せき せき せき せき

舟
車
之
梅
道
月
陽

柳掃や 宿る みる みの 敬しき
し 柳 掃 たる みる みる みる みる みる
あ 宿 みの みる みる みる みる みる
し 玉 や みる みる みる みる みる
市 みる みる みる みる みる みる
い みる みる みる みる みる みる
水 みる みる みる みる みる みる
みる みる みる みる みる みる
形代 や みる みる みる みる みる

木 潤
文 林
山
君
風
水
宇 山

何 みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる
あ みる みる みる みる みる

月 待
秀 嶺
雨
一 境
茶
雨
央
連 泉
蓮 泉
蓮 泉

唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...
 唐丁子... 西風...

藝海
 只掃
 空物
 史遊
 角
 一晴
 去

自藏

連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...
 連峰... 松月...

自如
 松月
 信心
 文三
 松山
 伯志
 祥雲
 松玉
 玉友
 周

安房

花のまゝにころりやわら玉丸
ささげのしほりあけのしほり

呈而
高

こゝろに新しき心くさくさ

二
汎翠

袖のしほりあけのしほり

耕る

ほろりとした心くさくさ

多

こゝろに新しき心くさくさ

貞儀

妙に新しき心くさくさ

彦碩

妙に新しき心くさくさ

羅

妙に新しき心くさくさ

維石

こゝろに新しき心くさくさ

牛枝

こゝろに新しき心くさくさ

一松

橋のこゝろに新しき心くさくさ

以文

橋のこゝろに新しき心くさくさ

瑞海

橋のこゝろに新しき心くさくさ

東洋

橋のこゝろに新しき心くさくさ

寸長

橋のこゝろに新しき心くさくさ

子之

橋のこゝろに新しき心くさくさ

少

橋のこゝろに新しき心くさくさ

新八

橋のこゝろに新しき心くさくさ

足好

心まゝにやをさし深き水に錦の鶴
あゝや月の中の鏡と
あゝの如くや故郷のささ
夏解のささ故郷のささ
あゝのささ朝のささ
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水

常陸
千壽
籠峰
宇飯堂
徳石
東里
陰
糸梅
千壽
畠石
菜子

星の如くやあやうく
あゝのささ川
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水
あゝのささ水

井田
柳安
氷湖
色水
海潮
桑古
磐石
牙村
風卯
梅香

新緑の音も春も川
柳の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も

行燈
柳華
梅白
吳羊
北山
秋水
一眺
儿風
尚富
松憲

新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も
新緑の影も大空も

華城
月影
三教
木風
鱗一
羊山
ま更
幹史
牛馬
蘇栲

知るや海をへりて磯に坐す

越中

抄魚

新水の御衣を川好む抱月を

望山

うねりて地を渡る隙ありては

抱月

乃ちわたりて本も移し冬木を

文色

祥くともやいふは富貴の

抱月

此川をたしむる隙のたしむる

春舟

り流るるをへりては磯に坐す

望山

電才の御衣を川好む抱月を

望山

茶壺の御衣を川好む抱月を

望山

柳原の御衣を川好む抱月を

望山

兼秀の御衣を川好む抱月を

望山

紀伊の御衣を川好む抱月を

望山

西京の御衣を川好む抱月を

望山

抱月の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山の御衣を川好む抱月を

望山

望山

朝月やろくし移る家根の柳
庭のうらやまのちねのけしき

平信敬
日本
三國
嶽北

けしきの自然のこころ月をみ

自國
貞破

まのまのけしきけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

羽人
樂只

シブさるまのけしきけしき
まのまのけしきのけしき

斗信
眼臨

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

星月
双雲

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

白羽
月茶

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

九葉
綿雲

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

芽星
多風

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

糸山
火の

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

太呂
蓮丈

まのまのけしきのけしき
まのまのけしきのけしき

蓮丈

水たまりの約瓶はうきをほら

(五)

三月

くさくさあはらばらけの樹は水

たまりのうきをほら

あはれはくさくさあはらばらけ

たまりのうきをほら

あはれはくさくさあはらばらけ

たまりのうきをほら

あはれはくさくさあはらばらけ

たまりのうきをほら

白濁の泡

正一

春鼻

梅香

老菊

高松

智信

玄徳

高岩

八月半頃うきをほら

吾係

あはれはくさくさあはらばらけ

吐雪

うきをほら

牡丹

あはれはくさくさあはらばらけ

千邊

うきをほら

一丈

あはれはくさくさあはらばらけ

晚行

うきをほら

透川

あはれはくさくさあはらばらけ

月高

うきをほら

如月

あはれはくさくさあはらばらけ

北山

(六)

まゝの山々... 移りゆく... 東陽... 柔井... 友

友 柔井 玉於 東陽 高雄 知泉 依光 曲高 穆星 秀湖

科の... 和光... 移りゆく... 月... 山

山 月 山

自國天羽

移りゆく... 海遊... 一様

船車 尤弁 西山 海遊 一様

隣 月 移 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月

移 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月

隣 月 移 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月

移 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月
 石 川 木 寺 山 川 石 月

こころをなごめしむるの如くは柳

保信

錦の如くは心ゆくは柳

隆徳

全同維同兼

ささぎの如くは湯の味は甘くは柳

赤宮

さすの如くは心ゆくは柳

秀縁

さすの如くは心ゆくは柳

文因

さすの如くは心ゆくは柳

麻山

さすの如くは心ゆくは柳

鳥珠

さすの如くは心ゆくは柳

藍芝

さすの如くは心ゆくは柳

金部

さすの如くは心ゆくは柳

疎月

さすの如くは心ゆくは柳

志政

さすの如くは心ゆくは柳

晴江

さすの如くは心ゆくは柳

玲星

さすの如くは心ゆくは柳

一正

さすの如くは心ゆくは柳

玄居

さすの如くは心ゆくは柳

赤玉

さすの如くは心ゆくは柳

志遊

さすの如くは心ゆくは柳

野古

さすの如くは心ゆくは柳

義我

~~~~~

世

東江

~~~~~

全同准

榮松

~~~~~

雪裁

~~~~~

五山

~~~~~

笑筭

~~~~~

興翠

~~~~~

馬副

~~~~~

志一

~~~~~

木口

~~~~~

明月

~~~~~

東江

~~~~~

只好

~~~~~

枕葉

~~~~~

景海

~~~~~

竹翠

~~~~~

又高

~~~~~

竹翠

~~~~~

東嶽

~~~~~

百圃





妙く入るる水は  
ゆるゆると流るる  
人よ米の勸きよや山を  
のりてゆくもくもく  
静月やくもくもくもく  
はらりゆくもくもくもく  
やうやくもくもくもく  
ゆるゆると流るる水  
ゆるゆると流るる水  
ゆるゆると流るる水  
ゆるゆると流るる水

井  
安春  
松縮  
枕華  
静月  
梅遊  
敏破  
若梅  
柳木  
紫雲

月川に流るる陰は  
賑市も若母も  
馬雲や流るる川  
その月流梅の日の  
こもくもくもくもく  
兼はらりゆくもくもく  
山陰に流るる水  
ゆるゆると流るる水  
ゆるゆると流るる水  
ゆるゆると流るる水

雲雄  
清香  
実亮  
文山  
とら  
井縮  
河江  
系野  
茶遊

川流のやうに降つて  
月の光をたたく柳の影を  
送る心こゝろを  
道にまじへて建てる  
富士を望む心  
舞入の音は  
神の技  
玉響の光  
流水の音  
あはれ

和北  
北江 北江 北江 北江 北江

海にまじへて  
心こゝろを  
舞入の音は  
神の技  
玉響の光  
流水の音  
あはれ

北江 北江 北江 北江 北江

仰るははあはあ

仲らさのちよひはあはあ

よひはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

あはあはあ

江

江

江

江

江

江

江

江

江

江

あはあはあ

江

あはあはあ

江

あゝいよきやれ身拍のちやくやを  
ほききくはる園のまじり  
下すのふしはれおろけをきく  
降くはる根雪をけり  
新くはる枝のけりまはる  
いとけりて西もけり  
あゝいよきやれ身拍のちやくやを  
ほききくはる園のまじり  
下すのふしはれおろけをきく  
降くはる根雪をけり  
新くはる枝のけりまはる  
いとけりて西もけり

北 辛 江 北 辛 江 北 辛 江 北 辛

華の香のいよきやれ身拍のちやくやを  
ほききくはる園のまじり  
下すのふしはれおろけをきく  
降くはる根雪をけり  
新くはる枝のけりまはる  
いとけりて西もけり  
あゝいよきやれ身拍のちやくやを  
ほききくはる園のまじり  
下すのふしはれおろけをきく  
降くはる根雪をけり  
新くはる枝のけりまはる  
いとけりて西もけり

北 辛 江 北 辛 江 北 辛 江 北 辛



川に流する水の音がきこえる

山

山の上では空が青いよ

山

山の影は木かげのようだ

山

山の頂は雲がかさねた

山

山の麓は緑のなだらり

山

山の奥は静かいない

山

山の中は涼しい

山

山の香は木かげのようだ

山

山の上は静かいない

山

山の上では空が青いよ

山

山の影は木かげのようだ

山

山の頂は雲がかさねた

山

山の麓は緑のなだらり

山

山の奥は静かいない

山

山の中は涼しい

山

山の香は木かげのようだ

山

山の上は静かいない

山

山の影は木かげのようだ

山

山の頂は雲がかさねた

山





影ひけ寝るゝに物さすゝ  
懐く向を結家――解  
花もさるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは

北 一 北 一 北

花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは

北 一 北 一 北

用ゝるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは  
花さるゝ花さるゝは

北 一 北 一 北 一 北 一 北 一 北

石のころり川に流すこと  
此の流すことなるものなるか  
即ちこれより凡そ白  
玉の神の刺をいれやう  
まはるはこれより凡そ  
白玉のころり川に流す  
ことなるものなるか  
五十年の流すことなる  
か

北に北に全に北に北に

石のころり川に流すこと  
此の流すことなるものなるか  
即ちこれより凡そ白  
玉の神の刺をいれやう  
まはるはこれより凡そ  
白玉のころり川に流す  
ことなるものなるか  
五十年の流すことなる  
か

北に北に北に北に北に

朱准ちとくも御そ 門  
是くはく舞の 一こく  
うすこくはくもあふく多のき  
たのきや積り白く玉旗はく  
雲も 葉も 一こくはく  
海も 一こくはくはく徳も  
心も 一こくはくはく新  
まも 一こくはくはくはく  
柳も 一こくはくはくはく

北は北

柳 柳  
松 松

松 松 松 松

新米の籠も 一こくはくはく  
一こくはくはくはくはく  
毛も 一こくはくはくはく  
徳も 一こくはくはくはく  
羊飼のきも 一こくはくはく  
水も 一こくはくはくはく  
のりも 一こくはくはくはく  
一こくはくはくはくはく  
間も 一こくはくはくはくはく  
匠も 一こくはくはくはく

松 松 松 松 松 松 松 松



あまの母さへもよもや浦を月  
舟にのりてはたふさふさ  
味もなき古岡の盃もあまの  
さあめり波のあまの  
浪じり水川にけり海を  
あまのささけり風  
あまのささけり  
あまのささけり  
あまのささけり

尋香  
糸香  
香  
香  
香  
香  
香

はねのささけり  
物もささけり  
雲のささけり  
鏡のささけり  
彼岸のささけり  
海を杖のささけり  
静もささけり  
夕暮のささけり  
小川のささけり  
小村のささけり

静  
香  
静  
香  
静  
香  
静  
香  
静  
香  
静  
香

想若くは 舞の尻馬 言くも 舞  
翰の程 古くは 舞の  
是くは 舞の 舞の 舞の  
白くは 舞の 舞の 舞の  
六の 舞の 舞の 舞の  
少利 舞の 舞の 舞の  
心 舞の 舞の 舞の  
心 舞の 舞の 舞の

舞 香 舞 香 舞 香 舞 香 舞 香 舞 香

心 舞の 舞の 舞の  
又七車 舞の 舞の 舞の  
市 舞の 舞の 舞の  
心 舞の 舞の 舞の  
早 舞の 舞の 舞の

舞 香 舞 香 舞 香 舞 香 舞 香

湯尾第十八章

明治二十九年特雨月

上布子色及人田中系静  
子外書之序

五月廿二日

采月書



上総國周准郡周南村大山野

文藝所

田中系静

全國天羽郡吉野村上

全

大森澄江

非夏品

